

平成29年度 国際連携活動計画

平成29年5月31日

国際連携WG

平成29年度 国際連携活動計画 概況

成果の発信と国際的議論への参画

- 自動走行に関する国際連携の重要テーマを欧州・米国と共有し、定例的な議論の場を設定。
重要6テーマ: Dynamic Map、Connected Vehicles、Human Factors、Security、Impact Assessment、Next Generation Transport
 - 欧州: European Conference on Connected and Automated Driving (4月)
 - 米国: Automated Vehicle Symposium (7月)
 - 日本: SIP-adus Workshop on Connected and Automated Vehicles (11月)
 - 3極: Trilateral Working Group on Automated Road Vehicles (上記と併催)
- 安全性評価手法の確立のための多面的な検討が進行しており、SIP-adusからも積極的関与が必要。
- 社会受容性醸成の前提となる社会的効果の定量評価にも注力。
- 実用化に向けた制度整備や保険などの社会的枠組みづくりの議論が活発化。

公道での実証実験の実施

- 各国・地域での自動運転の公道実証の準備が進み、今年度一斉に実験開始。
- 欧米では、協調型システム実用化前の大規模実証実験も並行して推進。
- 各国とも実験への国外からの参加促進や評価指標の共有による国際調和促進への期待大。
- 欧州では、閣僚会議の合意に基づき、国境を超えた自動運転の環境整備を加速。(目標2019年)

国際標準化の推進

- 国際標準化機構(ISO)において、ダイナミックマップおよび走行制御の標準規格化を日本が座長として牽引。(事務局: 自動車技術会 ITS標準化委員会)
- 技術革新が急速に進む情報処理分野では、国際標準化を経ずに独占・寡占企業が市場を握ることが多く、それらの動きにも働きかけて技術標準の国際調和を推進。

平成29年度 国際連携活動計画 実施内容

大規模実証実験の実施を通じた国際的に開かれた研究開発環境の提供

- 国際連携の重要6テーマに沿って実施する大規模実証実験に、国外の自動車メーカーや研究機関の参加を募り、実験環境と成果を共有することにより自動走行技術の国際調和につなげる。
- 日本の協調型運転支援システム(世界で唯一実用化済み)から提供される動的データの自動走行への活用事例を国外からの参加者と共有し、実績に裏付けられた技術仕様の議論を牽引する。
- 人とシステムの役割やセキュリティー評価などの基礎的検討が必要な研究開発テーマに関しては、計画されている実証実験を国際共同研究推進の端緒とする。

テーマ別の国際連携活動の推進

- 国際標準化
Dynamic MapおよびHuman Factorsは、ISOにおける標準化作業を計画通り推進する。
併せて、業界標準との調和や国際共同研究推進による実効性の確保に努める。
- 安全性を担保する枠組みづくり
自動走行車両の安全性やサイバーセキュリティを確保するための技術開発や枠組みづくりに国際機関や国際的学会活動など多様な機会を活用して取り組む。
- 自動走行技術がもたらす社会的影響評価
都市交通や社会的課題解決への寄与を定量的に評価することが実用化促進の大きなテーマとなっており、SIP-adusの成果を国際連携活動につなげる。

国際会議「SIP-adus Workshop on Connected and Automated Driving」の開催

- 国際連携の重要6テーマ、大規模実証実験、SIP-adusの成果、に沿ってプログラムを構成する。
- 公開セッションによる研究開発成果の国際発信に加えて、少人数の非公開専門家会議を設定して専門性の高い議論を行い研究開発の課題の共有や解決策の検討などの議論を深める。
- 国外からの参加者を対象に大規模実証実験の参加車両への試乗会も設定する。

平成29年度 国際連携活動計画 各テーマの活動

Dynamic Map

- ISO TC204 WG3における標準化作業を進め、計画通りの規格化をめざす。
- 欧州業界標準 (NDS: Navigation Data Standard / OADF: Open AutoDrive Forum) との技術仕様の調和を図る。

Connected Vehicles

- 路車協調・車車協調ともに実用化で先行する実績を活かして、自動走行への活用議論を牽引する。
- 自動車業界と通信業界が連携した次世代の通信技術の要件検討を国際的議論に発展させる。

Human Factors

- ISO TC22 SC39における標準化作業を進める。
- 三極会議を契機に執筆している共同論文を発表し、国際共同研究に発展させる。

Security

- 情報セキュリティ確保のための専門技術開発に関して、国内外の業界団体 (日本自動車工業会、ACEA) と連携し、国際学術団体 (SAE、IEEE) の活動への参加を促進する。
- 技術のみで防ぐことの難しい脅威に対処するための、業界横断の枠組み (Auto ISACなど) の検討を進める。

Impact Assessment

- 自動走行技術の自動車交通の安全や円滑化への効果評価手法の開発成果を国際的に共有し活用する。
- 昨年のSIP-adus Workshopで日本が先鞭をつけた社会的効果の評価手法を国際連携テーマに発展させる。

Next Generation Transport

- 東京オリンピック・パラリンピックで実用化するARTと都市交通全体を支える情報センター、交通信号優先制御、歩行者支援などを含めた統合的な取り組みの国際発信を強化する。

Roadworthiness Testing (未着手: 安全性評価技術)

- 自動走行車両が具備すべき機能と性能水準の基準づくりと評価手法の開発の国際的議論への参加を強化するとともに、各国の研究開発プロジェクト間の国際連携の枠組みを検討する。
- 国家プロジェクトとしての連携と企業間・業界間の国際連携の動きを層別して取り組む。